

山田市長の選挙公約について

伊藤 勝美



療圏域における医療連携の見解を伺う。

〔答弁〕市長「みやぎ県南中核病院との連携が必要であることは認識として変わっていない。」

〔質問〕掲げた選挙公約に対し、就任約3年間の実績をどのように捉えているのか伺う。

〔答弁〕市長「公約については、実現できたもの、途中なもの、時間のかかるものがあると感じている。」

また、市長に就任して議員時代以上に本市の財政の厳しさを痛感し、さまざまな市政課題をクリアするため、日々全力疾走、全力投球で努力してきた約3年間で考えている。

〔質問〕市民の安心を全力で守るため「刈田綜合病院を核とした地域医療の充実に取り組み」としているが、仙南医

が大切だと考えている。小中連携英語教育推進事業などを通して、今後とも教育委員会と密接な連携を図りながら、子どもたちの育成に努めていく。

◎職員の名刺について

〔質問〕職員の名刺をどのように作成しているのか伺う。

〔答弁〕総務部長「基本的に自費により作成している。市長、副市長、育長については公費で賄っている。」

〔質問〕職員の名刺も公費で負担すべきと考えるがいかがか。

〔答弁〕総務部長「財政状況が厳しい本市にとっては悩ましい問題であるが、名刺は個人のものという考え方から自費による作成を基本としている。」

〔その他の質問〕

◎交通安全対策について

◎小・中学校における「教員の働き方改革」について

高齢者の免許返納と自治体の必要な取り組みについて

沼倉 啓介



〔答弁〕企画情報課長「免許返納の促進や高齢ドライバーによる事故を減らすためには市民バスの運行を増やすことは有効である。」

しかし、全国的にバス業界では運転手の確保が非常に厳しい状況にあり、現在の状況よりも運行を増やすことは難しい状況である。

〔質問〕川原子地区は、高齢化率も高い水準を示し、市内からの距離もあり、高齢者の方々といえども自ら運転し、事をなすしかない状況を示している。

確かに現状を見ると、火・金曜日の交通手段の対応はしていただいている。

しかし、高齢者にとつては病院通いは必須のため、それらの日以外はタクシーなどの手だてを利用するしかなく、多大の費用負担を余儀なくされ、我慢してしまふことが多々ある。

当該地区への対応は、現状が精いっぱいなのか伺う。

ある地区での話し合いにおいて、現状をご理解いただき地区でも何かやれることはないかというお話もできています。

そういった話し合いを今後とも継続して進めようとしている状況である。

◎本市の財政について

〔質問〕「入るを量りて出ざるを制す」このことさえも本市の財政状態を見ると通じなくなっている。

事業立案の段階から市民に開示してみるのも、このような財政を脱却する大きな力になるのではないか。

〔答弁〕市長「財政負担の開示等も含めてその都度検討し、判断していきたい。」

また、一番重要なのはこの議会の場と考えている。市民の代表である議員と議論を尽くすこの場が説明責任の場でもあると認識している。